東京都、初の国際イベントや都市サミット　外部連携強化

#東京 #5G #地域金融

2023/3/1 17:02

都のスタートアップ支援イベントでは、先進的な展示などが目立った（2月27日、東京都千代田区）

東京都は1日にかけて、スタートアップ支援の国際イベントと世界主要都市の首長サミットをともに初開催した。新型コロナウイルスの影響が和らぐなか、海外都市やスタートアップと協力し、気候変動などへの対処を目指す。都は持続可能性とハイテクをテーマに「SusHi Tech（スシテック）」を提唱するものの、外部連携などで具体策の実現を先導できるかが問われそうだ。

東京都の小池百合子知事（中央）は、気候変動対策やトルコ地震支援などを国際会議の共同声明にまとめた（1日、都内）

1日に閉幕した「G-NETSリーダーズサミット」には世界30を超える都市が参加。都市課題の解決に向けた連携、トルコ南部の地震に対する支援の迅速化などを共同声明「東京宣言2023」にまとめた。小池百合子都知事は「議長都市として新たなネットワークを発展させる」と意気込み、2024年に第2回会合を開くと表明した。

環境がテーマのセッションには小池氏自らが登壇し、アラブ首長国連邦（UAE）のアブダビや米・ニューヨークなどの代表とエネルギー問題の解決策などで議論を交わした。小池氏は水素エネルギーの活用などの施策を紹介。各代表からは「環境分野の雇用をうまく生み出すことが重要だ」「持続可能な開発に着手できていない地域がまだまだある」などの指摘が出た。

G-NETSではスタートアップとの連携も主要テーマとなった。2月28日の基調講演にはユーグレナの出雲充社長が登壇。バングラデシュで目にした貧困問題をきっかけに起業し、都の支援で屋形船や都営バスに同社のバイオ燃料を採用した事例などを披露し、「知事や市長の皆様はスタートアップ支援を。起業家を応援していただきたい」と訴えた。

都のスタートアップ支援イベントでは国内外の関係者が参加した（2月27日、東京都千代田区）

一方、都はスタートアップ支援を目指し、2月27〜28日に国際イベント「City-Tech.Tokyo（シティ・テック・トーキョー）」を初開催した。会場の東京国際フォーラム（東京・千代田）には300を超えるスタートアップが出展し、都の取り組みや「空飛ぶクルマ」なども展示。小池氏は今後5年間で10億ドル（約1300億円）を超える規模のスタートアップ支援策を表明し、会場内はスタートアップの担当者や海外の投資家らによる英語での商談やPRが繰り広げられた。

出展者のひとつ、東京きらぼしフィナンシャルグループ（FG）は連携している海外のベンチャーキャピタル（VC）や、支援するスタートアップなど計20社を紹介するパネルを展示した。会場には海外VCの関係者らが訪れ、東京きらぼしFGのネットワーク基盤もPR。渡辺寿信社長は「スタートアップの情報が得られる非常にいい機会。イベントをきっかけに、日本と海外の企業のコラボレーションをサポートしていきたい」と語った。

東京都が同時期に2つの大規模イベントを開いた背景には、先進的な都の施策を内外にアピールする狙いがあった。小池氏は「東京の世界における役割も直接認識してもらえるいい機会になったと思う」と述べた。24年5月に2回目を開催する両イベントは都が新たな取り組みを進める臨海部を会場とし、環境技術やフードテックなどを紹介するという。

ただ、今後は海外の先進事例など外部の知恵を取り込んでいくことも重要となる。ヤフー元社長の宮坂学副知事は「イノベーションは組み合わせ。国内同士もいいが国内と海外、民間と行政、新結合の組み合わせのパターンを増やすのが大事だ」と指摘する。

気候やエネルギーの危機は世界各都市が直面する課題で、スタートアップにとってはビジネスチャンスでもある。外部との連携でイノベーションを主導し、東京発の成功事例を具体化させる実現力が欠かせない。